

# 「いのちの章典」

## 実践交流集会

〜ともに生きる一人  
ひとりのものがたり〜

### 『大阪きづがわ医療 福祉生協、訪問看護 ステーションの報告 を視聴して』

こびらい生協が出来てそんなに間がないころ、地域の高齢のお父さまを、在宅で金城先生に背中をトントンしてもらって、最後まで往診で対応していただけたと、感謝された娘さんのお話を忘れられません。

きづがわ生協では、「ご家族を失った悲しみを癒す」「家族の会つなく」を結成され、遺族訪問や交流の場を持たれているそうです。

「私たちはつないだ手を離さない」という言葉に感銘を受けました。  
(栗東支部・Yさん)

## 10年前の出来事が 甦る

〓岡山医療生協の在宅看護、  
看取り看護、連携看護で学んだ事〓

「いのちの章典」実践交流集会に参加させていただき、岡山医療生協の在宅看護、看取り看護、連携看護のお話を聞いて、10年以上も前になるのですが、私のお友だちのご主人が悪く、この報告と同じ医療を受けられたことを思い出しました。

現場（在宅看護・訪問介護）のみなさんは、様々な不安や心配を抱えながらも、ご家族と密に関わり、頑張った経験を聞いて感動しました。職員さんの参加が少なかったのが残念でした。

(草津東支部・Kさん)

## 頼らないことが自立 することではない

〓周りを巻き込んだ取り組  
みの強化を〓

7月12日の「いのちの章典」

実践交流集会で、内閣官房の村木

いました。

厚子さんは講演の中で、生協は「助け合う」というコンセプトを持っている。食に強いし、施設を持っている。物流の仕組みを持ち、物資を持っている。情報発信の手段を持ち、資金を持っている。働く場も持っているし、力を持った組合員がいる。学習する文化もある、と述べられていましたが、課題は周りを巻き込んだ取り組みを強化するようにしてほしい、と問題提起されていました。又「自立」とは依存しないことではない。沢山の方に少しづつ依存できるようになることである。と述べられていました。

私たち組合員の中にも、迷惑を掛けたくない、と言って相談しないという方もおられます。相談しなくても、自立した生活が送れるようになりたいということのようですが、村木さんが言われているように、医療生協も沢山の方から依存されるようになりたいものです。そして課題を提起されているように、物事を取り組むときには、医療生協だけで取り組みのではなく、組合員でない人や、他の諸団体とも一緒に取り組みをするようにしたいものです。

(草津北支部 野添正一)

### 学習講演 講師プロフィール

むらき あつこ  
村木 厚子さん

津田塾大学総合政策学部  
客員教授  
全国社会福祉協議会会長、  
中央共同募金会会長、  
全国老人クラブ連合会会長



1978年4月労働省へ入省。職業安定局高齢・障害対策部渉外者雇用対策課長、女性局女性政策課長、2001年厚生労働省雇用均等・児童家庭局長雇用均等政策課長、社会・救護局福祉基盤課長、障害保健福祉部企画課長を経て、2005年10月大臣官房審議官。2008年雇用均等・児童家庭局長、2010年内閣府政策統括官、2012年社会・救護局長、2013年厚生労働事務次官を歴任し、2015年退官。2017年4月より津田塾大学総合政策学部客員教授。現在、内閣官房孤独・孤立対策担当室政策参与、全国社会福祉協議会会長、中央共同募金会会長、全国老人クラブ連合会会長などを兼務。

